

第 10 回 苫小牧市男女平等参画を推進する市民会議 会議録（概要版）

日程：令和 4 年 2 月 4 日（金） 14：30～16：00

会場：オンライン開催

<開会>

▼事務局

皆様、こんにちは。定刻となりましたので、ただ今から「第 10 回苫小牧市男女平等参画を推進する市民会議」を開催させていただきます。

<宣言唱和>

▼事務局

始めに、苫小牧市男女平等参画都市宣言の唱和を行います。これは、北海道で初めて平成 25 年 11 月 17 日に宣言したもので、宣言文に込められた理念の普及・啓発のために唱和を行わせていただくものでございます。私が読み上げますので、皆さんは黙読をお願いいたします。（宣言文唱和）

ありがとうございました。それでは、ここからの進行は、市長、よろしく申し上げます。

<市長挨拶>

▼市長

はい、皆様それぞれにお忙しい中、第 10 回目を迎えましたこの市民会議、ご参加いただきましたことを、厚く御礼を申し上げます。限られた時間ではございますが、皆様からたくさんのご意見をいただければ有難いなと思っております。

コロナの感染状況が、市内でひどい状況が続いておりまして、今日も WEB 開催ということでもありますし、先程宣言が読まれましたが、それ以降のプロセスにおいてこの市民会議が設置されたわけでありまして、市民会議が設置されてこのかた、コロナの影響で行動の制約があったり、気持ちの上での制約がどうしてもあってですね、予定していた事業をフルに行う状況ではありませんが、しかし、この男女平等参画、ジェンダーの問題というのは、わが国では社会問題となっているわけでありまして、この苫小牧、地方都市でありますけれども、この街でもしっかりと目標を立てて、一步一步進んでいかなければならない、進んでいくべきミッションではなくて、いかなければならないミッションであるということを痛感しております。今日は第 10 回であります、ある意味でひとつの区切りにしたい、と考えております。これまで 10 回の市民会議をファーストステージという位置づけをしますと、次のセカンドステージに向かって、今日は事務局から、色々練りに練った案も皆様に聞いていただいて、その案に対して皆様からたくさんのご意見、ご示唆をいただく会にしたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

またご報告になりますけれども、ファーストステージで取り組んできた「自分らしさ応援 EXPO」にて実施した女性市議のみなさんのパネルディスカッション動画、「見てください！聞いてください！女性議員のリアル」が、内閣府の好事例集の掲載候補になったというところで、候補という事ではありますけれども、ほぼ決まりと、報告を受けております。また、これが内閣府の好事例集として全国のみなさんにこの取組に触れていただければありがたいなというふうに思っております。

それでは、先程言いましたファーストステージからセカンドステージに向けて、これから事務局から説明をさせますので、まずはこれからの説明を聞いていただいて、そのあと皆様から多様なご意見を頂戴できれば良いなと思います。

最初から言っていますが、このミッションはやはり歩きながら考えていかなければなりませんし、いつまでに何を、というよりも、これから相当な時間をかけてですね、市民・企業市民の皆様と一緒に取り組んでいくミッションでありますので、そういう観点から、第10回、ひとつの区切り、という思いを含めてですね、次の展開に関する事務局案について聞いていただければと思います。

<新しい市民会議について>

▼事務局

皆さんこんにちは。新しい市民会議についてご説明いたします。

まず前回の市民会議においても確認させていただきましたが、市民会議の設置目的について改めてご説明いたします。市民会議とは市民や団体企業そして行政がそれぞれ情報交換や相互連携のできる場、そしてこの会議を通しメンバーの皆さんが直面する男女平等参画に関わる課題の解決を図ることを目的として作られました。

そうした中、前回、皆様からのアンケートをいただいたり、新しい市民会議のキャッチコピーなどを考えていただいたと思います。いただいたご意見を参考に、事務局としてこのような市民会議を提案したいと思います。それは、「苦小牧に変革を起こせる市民会議」。これを目指していきたいと考えております。

皆様からいただいたご意見の中で市民会議に求めるもの、そして私たち苦小牧市が市民会議に求めることを整理したときに、主にこの4つが柱となると感じました。

それは「情報発信」、そして「多様なメンバー」、そこから繰り広げられる「対話」、そして最後に「イノベーション」、この4つです。

アンケートからは市民に直接届く形の方法や目的の明確化そして会議としてのアウトプットなど情報発信についてのご意見をいただいております。参加企業に対する意見や当事者からの意見を聞きたいなどといったメンバーの多様性、そちらについてもご意見をいただきました。また事務局としては目に見える成果を結果をと言うところを重視しがちでし

たが、皆様からのご意見の中では、決して答えありきではない、多様な意見に触れるこの機会自体が重要なんだと対話の重要性をご指摘いただきました。そして市政への反映やメンバーの方が会議以外の場でも参画、活躍できる、変化をもたらすと言う意味で、イノベーションをあげました。

第9回目、前回の市民会議で皆様に考えていただいた新しい市民会議のあり方も、「情報発信」、「多様なメンバー」、そして「対話」。こちらが共通するキーワードであると思います。この3つによって起こるイノベーション、つまり「変革」。「苦小牧に変革を起こせる市民会議」が、私たちの目指していききたい市民会議です。

では具体的にはどういう風に市民会議が変わるかそちらについてご説明いたします。

まず1つ目の柱の「情報発信」。今後は会議内への情報発信を強化していきたいと思えます。テーマに合わせた課題や現状について情報を提供することによって、「参加することによってこういった情報が得られるんだ」そういったメリットの提供をしていきたいと思っています。

たとえば男性の育休について話し合ってくださいと言われても、実際今じゃあどういう制度なのか、どれくらいの割合の人たちが取得をしているのか、何が取得のネックになっているのか、そういったところを全て把握されている方っていうのは中々いないと思います。対話に必要な情報、そして考えたり行動するきっかけになる情報。それを提供していきたいと考えています。

さらに外への情報発信。今の市民会議は正直関係者以外には知名度はゼロに近いと思っています。ですが理想を高く持つのであれば、今参加されているメンバーの皆さんが周りの方に「市民会議ってどうやったら参加できるの？」そういったふうに聞かれる。そんな状況にしていきたいです。そのためには私たちも SNS を現在運用しておりますがそこでの活動内容の発信や市民への発信と言うところにもっと力を入れていきたいと考えています。また参加メンバーによる情報発信と言うことで例えば皆様の中で SNS、例えば Facebook などをされている方がいれば市民会議に参加していることを発信していただいたり紹介していただくことに、ぜひご協力いただきたいです。

企業の皆さんであれば例えば CSR 活動などの一環として自社ホームページで紹介していただくなどそういった情報発信も1つだと考えております。

2つ目の柱は「多様なメンバー」です。今までは固定のメンバーとして皆様に毎回ご参加のお願いをしておりました。ですが例えば参加できなかった回があると次回以降ちょっと話についていけないなあと参加をためらうケースと言うのもあったかと思えます。今後は対話のテーマごとに参加の希望が可能となります。またメンバーの登録についてもイメージとしてはメーリングリストのようなイメージです。

さらにメンバー推薦制度を導入します。現在登録いただいているメンバーの方から「この会

社のこの人も参加してもらったほうがいいんじゃないか」「この団体のこの人も参加したほうがいいんじゃないか」そういったようにメンバーの皆様からの推薦により参加をする方を増やしていこうと考えております。これにより今まで以上に多様な意見を聞くことも可能になってくると考えています。

3つ目の柱は「対話」です。皆様からのご意見の中で参加して良かったと思えたポイントで、特にご意見が多かったのが、多様な視点の話の聞けたこと、そういった事でした。

多様な視点の話を聞けると言うのは、新しい情報や実際の困り事そしてそれを解決するためのアイデアやヒント事例などを聞けると言うことでした。対話をメインの会議にすることで参加者の皆さんがより交流できる場にしていきたいと考えています。

そして最後に4つ目の柱である「イノベーション」です。情報発信を強化し多様なメンバーによる対話をする事によって生まれるイノベーション変革。市民会議に期待する事はこのイノベーションでもあります。

市民会議では答えやゴールをあえて設定しません。参加者と参加者の皆様が変わることによって何か新しいものが生まれるかもしれない。そして市民会議や行政が積極的に関わっていることによって新しい政策が作られるかもしれない。さらには情報やこのネットワークを通して何か新しいものが生み出されるかもしれない。市民会議によって得られるものの可能性というのは無限大だと思っています。そしてこの変革やイノベーションと聞くと何かすごい大きな事と捉えられがちなのですが変化と言うのは大きい小さい、そういうものではないです。例えば市民会議で得た情報を職場で話してみた。それも立派な変化です。市民会議で出たテーマについて夜ご飯の時に子供と話してみた。それも立派な変化です。もしかしたらその話した部下はその情報を必要としていた方かもしれません。実は、、、って相談に発展するかもしれないですし、子供が自分の可能性に気づいてこれをやりたい前向きに捉えられるきっかけにもなるかもしれないです。そして参加している皆様自身にも何か心に変革がもたらされるかもしれないです。

男女平等参画の推進は制度だけではなくて一人ひとりの意識の問題でもあります。この会議に参加することによって皆様の意識そして皆様の周りの意識に大きい小さい関係なく何か変革を起こしていける。そういった市民会議にしていきたいと考えています。

これが新しい市民会議の4つの柱です。

では新しい市民会議の進め方のイメージをご説明いたします。

今までは1つのテーマを毎回続けてお話しさせていただくような形でしたが、これからは対話のテーマは1回で完結するイメージです。

例えば仮に対話のテーマを男性の育休だったとしたときに、まず参加されたときに情報

の提供を事務局などからさせていただきます。最新の情報や制度についての説明、新しい取り組み等について情報を提供します。その情報提供を受けて、現状の共有。実際うちの会社はこういった状況ですよ、私の夫はこういった取り方でしたよ、取ろうと思ったけどこういうこと言われたなあ、こう言った感じで現状の共有をしていただきます。さらにそこからじゃあ実際何がネックなのか。課題解決に向けた対話。これをディスカッションしていただきます。最後に各グループごとにこの対話の結果の発表そしてそれを皆様に共有していただく。

これが新しい市民会議の進め方のイメージです。そしてこの対話のテーマは毎回変わります。

新しい市民会議を進めるにあたって皆さんにお願いしたいことが3つあります。

メンバー登録とメンバー推薦についてです。今のメンバーの皆様は自動で登録となりますので特に何かしていただくわけではありません。ただし、もしメンバーを辞退されたい今後とも一切参加ができませんと言う方については辞退届と言うものの提出をお願いしております。その際には辞退される理由について今後のためにも詳細にお聞きすることになると思いますのでご協力をお願いします。

そしてもし皆様の中で既に推薦したいメンバーがいる場合については登録書の提出をお願いしたいと思います。このメンバーの推薦は例えば自分の会社の中のこの人でもいいですし、お知り合いの方でも ok です。事務局までご相談ください。

また発信への協力もお願いいたします。市民会議の様子は写真撮影動画撮影はオーケーな公開の場でもあります。SNSなどで発信していただいても結構ですし、例えば他の会議の場で「実はこないだ参加した市民会議でこういうことがあって」って言う形でも、もちろん発信の1つです。さらには同僚との雑談や家族との会話、市民会議で得たものをアウトプットしていく。会議を通して感じたことよかったことそして考えていること何でもいいので周りに話すアウトプットするこれが発信の第一歩であり、イノベーションの第一歩でもあります。

企業や団体そして市役所の中もちろん、苫小牧市民に対しても、苫小牧市全体に何か変革をもたらすことができる市民会議として新たなスタートを切っていきたいと思います。

▼市長

今、第1回～第9回までのファーストステージの中で、皆様からいただいたご意見等々を整備して、セカンドステージにチャレンジする一つのモデルを事務局から説明させていただきました。これから少しの時間ですけれども、市民会議の運営イメージ等について、ただいまの説明について、皆様からご意見、感想等をいただければと思います。目指すべき方向、または4つの柱、さらには運営のイメージ、等々について説明があったわけですが、ど

うでしょう、率直なご意見をいただければと思います。

▽メンバー

非常にクリアになったと言いますか、伝わりました。ご説明ありがとうございます。まず取り扱うテーマは、苫小牧市としても強く推進しているところでもありますけれども、意外と結構マイノリティな話題が多いのかな、という感じがしております。私個人としても実はたまに発信していたりもするのですが、会社としてもそうですが、そういった人がコツコツとしていくのも非常に重要なことだなと思いますし、メンバーを固定せずということでしたので、その都度その都度関心を持ったから広げていくという手法もとてもいいなと感じました。初回から参加させていただいておりますけれども、今後ともぜひ登録継続させていただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

▽メンバー

簡潔な説明をいただきまして、我々も非常に感ずるものがありました。特に、新しいメンバーを含めて自由な活発な参加ができるというやり方は、今までのお話しを聞き我々自身が受け取った内容も含めてですけれども、新しい参加者の意識がそこに伝わっていけばですね、より一層みなさんの理解も深まっていくのではなかろうかと思います。我々もよーいドンでスタートした時には、はてなんだろうな、というところから始まっておりますので、これはやはりどうしても、最初に参加する方はみなさん内容がわからないといいますが、捉えどころがないという状況が今後も出るんでしょうけれども、積極的に参加させていただける、あるいは新しい方が参加し易い環境づくりがいただければ、我々のような老鳥よりもですね、若い方々が市民目線で参加できるっていう環境づくりが非常に有難いなという風に思っております。私も今後繋げていきますのでよろしく願いいたします。

▽メンバー

ご説明ありがとうございました。私もですね、今お話しを聞いていいなと思ったのはメンバー登録制というところですね、要は固定メンバーにしないということに関して言えば、最初私が出させていただいた時も、参加されるメンバーが多様な方々いる中においてですね、どうしても合致しないテーマだとかがあるんじゃないかと思っていまして、そういった面では、参加される方が興味があるとか、関係するようなテーマの回だけでも出られるような形にする方が、より有意義な議論だとか意見交換ができるのではないかと思いますので、非常にわかりやすい体制になったのではないかと思います。

▽メンバー

参加メンバーが自由にならなくていい、ということになると、非常におもしろい取り組みになるなあと感じました。あと、今オンラインということでやっていますが、新し

いメンバーを入れるに当たっては、オンラインもフルに使えるようにしていくと、色々なところでいて、同時に色々な人が参加しやすいのかなと思いました。

▽メンバー

今回はご説明いただきましてありがとうございます。前回の市民会議に参加しまして、やはりグループディスカッションで色々な話を聞くことができたというのは、非常に楽しかったなと感じておりました。ですので、今回ご説明いただいた運営方法というのは非常に有難いなと思っています。

さらにですね、こういったやり方を取ることによって、このメンバーの位置づけというか役割がですね、非常に明確になったなと感じています。すなわち、メンバー1人1人が、この男女平等参画について、世の中に化学反応を起こす、要は「触媒」としての役割を1人1人が担っていかないといけない。そういったことを改めて肝に銘じて、私自身もぜひこれからも活動を続けていきたいという風を感じております。

▽メンバー

今までの皆さんから出された意見を、事務局の方、非常によく拾っていただいて、先々のこと考えていただいた資料かなと思って聞いていました。内容については特段異論はなく、このまま次回以降進めていければなと思っております。

1つだけ要望があります。7スライドの情報発信ということで、「外への情報発信」という記載があるのですけれども、当然会議の中で、先程の説明にもありましたけれども、基礎知識がない中で会議をやるのではなくて、最初にその基礎知識を教えていただいたうえで議論をして意見を出すというミッションになりますので、外へ出すときにもですね、聞いている方たちは基礎的な知識がないと思いますので、できることであれば、外へ発信するためのツールというんですかね、基本的な認識はこうです、そして当日会議体でこんな議論がされて、こんな意見が出されました、というのをですね、コンパクトな感じで作っていただくと、それは市民会議における議論の成果物にもなりますし、それを我々が使って外に説明するときも説明資料ということでもうまく使えるのかな、という風に思いますので、ぜひご検討いただければと思います。

▽メンバー

私もアンケートに答えた中でそういったところを取り上げていただいたという面では、そういった形になってきているのかなと思っています。ただちょっとですね、心配と言いますか、これ一応市民会議、会議という名前がついている中で、果たして皆さん、一般市民の方が期待されているとかイメージされているものとしてどうかな、というところが正直あって。何かそこで答えを出すとかいうことでは全くないわけであって終わってしまうので、そもそもそういうことをやる会議であるということの説明が1つ必要だなとい

うところと、課題は課題として話し合った、その次の展開をどのようにしていくのかっていうところを、仮にそれが課題と思った人たちが別の会を作るなり何なりして、そこでまた次の活動に繋げていくだとか。

次が見えないっていうのが何かモヤモヤ感があったり、会議の意味がちゃんと伝わるかなというところが心配に思えたんですけれども。あまり固めないで自由にやるというのは非常に良いとは思いますが、捉える方によってはどういう風に捉えられるかな、というところは心配ではあります。

▽メンバー

ご説明ありがとうございました。メンバー登録制になるということでしたので、興味のあるテーマですとより議論も活発になるかと思しますので、非常に良い形になるのかなと思いました。

1つ気になったのはスライド 10 ページ目のイノベーションのところの「答え・ゴールをあえて設定しない」というところで、先程の発言と多少被る部分もあるかもしれないんですが、答え・ゴールをあえて設定しないということで良い部分もあるかもしれないんですけれども、その会議が果たして成り立つのかな、という不安はあります。ただディスカッションしただけで終わってしまうのではないか、というところで、きちんとディスカッションしたところが最終的にゴール地点までたどり着くような工夫が多少必要なのではないかと思いました。

ディスカッションの前に情報提供をしていただけるということでしたので、これは私も、先程例に挙げていただいた男性育休のところとかは、制度のことですとか事実上みなさんどういう風になっているのかなというのは会社としても非常に興味があることですので、そういった情報提供をしていただけるというのは会議に参加する意義が会社としてもあるかなと思いますので、ぜひ今後も引き続き参加していきたいなと思っております。

▽メンバー

事務局のみなさんご説明ありがとうございました。前回参加していませんので、事の成りを説明していただけたのは大変ありがたかったです。個人的にですけれども、この新しい市民会議のイメージ、それがそもそもの、苫小牧から発信されるイノベーションなのではないかと感じました。

みなさんおっしゃる通り情報提供が先にされていてテーマについてお話をする、ということに関しては、議論がし易くなるなというところがありますし、あとは自分事で一旦考えて会議に参加する、というような取り組みにもなってくるのではないか、と思いました。

懸念される部分も多々あるかなとは思いますが、まずはやってみて、ここで何か疑問だったりとかおかしいなって思うところが市民の皆様から起こること自体も、苫小牧が変わるきっかけにもなるのではないか、と感じております。なのでメンバーとしてこれからも疑

間に思うことは、これは良く分からないとか、落としどころがわからなかったとか、というようなこともどんどん発信していけたらいいな、というのと、あとは議論をした中で最終的に結論や結果が出ないということに関しては、のちのち、次回の時に情報共有をする、まずこの1度の対話では、全てを網羅するのは難しいかと思imasるので、発散させていただいて、グループの中で情報を提供しあいながら、じゃあ次どうなったの？といったところを、次回ちょっと発表するような形で、それもまた発信していくということにすれば、ある程度落としどころは見えてくるのではないかと感じました。

▽メンバー

全部見せてもらって、まず率直にすごくおもしろくなりそうだな、と感じました。事前の情報提供というのもすごく嬉しいですし、テーマを絞って多様なメンバーに参加してもらって、推薦を導入する、これもすごくいいなと思っていて。私も全部が全部網羅しているわけではなくて、知識にもものすごい偏りもありますし、実際に来てくれる方たちもそうだと思います。色んな人に参加してもらって、自分の好きなテーマからとかでも良いので、まずはきっかけとしてそれを考えてもらう。帰ってから自分の中でうまく咀嚼をして考えてもいいでしょうし、本当に晩御飯の話の種にのせてもいいと思うんですよ。ただ何らかの形でみなさんにそういうことを考えてもらうきっかけを作る、という意味で、この新しい市民会議はすごくおもしろくなりそうだなと、私自身はまだまた続けさせていただいて色々学ばせてもらいたなと思いました。

▼市長

はい、皆様ありがとうございます。皆様から一通りご意見をいただきまして、概ね、フレームについては皆さんからご賛同をいただけたのではないかと考えております。新年度において、新しいモデルの市民会議がスタートするということになりますので、名称とかオペレーションプロセスも含めて、皆さん方のご意見を伺いながら、歩きながら考える、というしっかりとした歩みをしていくことが大事ではないかと思imas。

皆さんからいただいた意見の中で、例えば情報の受発信基地のようなものを、市のホームページからアクセスするのではなくて、このグループ、全10回という積み重ねがある、今のところまだ市民会議ですが、市民会議の情報受発信基地を作ろう、ということ事務局にも投げかけています。

これはホームページスタイルがいいのか、あるいはフェイスブックスタイルがいいのか、より効果的ですね、そこにアクセスしたら、もちろん我々の運動のプロセスも含めて、あるいは男女平等参画に係る様々な情報、様々なと言っても限界があろうかと思imasが、例えば最近よく話題になる世界経済フォーラムのジェンダーギャップ指数なんかをですね、4~5年前から遡ってその経過を、非常にレベルが低いということ、そういう日本人として知っておくべき情報も含めて、その基地にアクセスすれば様々な情報が得られる、というよう

な情報受発信基地をですね、セカンドステージでは作っていききたいなと思っております。

もう一つは、やっぱり目的があってそのプロセスで「もやもや感」という言葉を使っておりましたけれども、このもやもや感を解消するために、1つはですね、皆様からのこれからの運動は行政の施策、あるいは政策にどう展開できるのか、ということですね、私は考えていききたいなという風に考えています。まあそれが1つの、もやもや感解消への取り組みになっていくのではないかと、思っていますし、もう1つはですね、例えば皆様がたからこれから運動展開でいただいたものを、我々事務局が中心になって、そのことへの効果的な団体とか個人とか、場合によったら町内会とか、まあそういうところに投げかけていく、行動に移していく、そういうところで少しモヤモヤ感を解消できるのではないかな、というイメージを考えておまして、そこでの取り組みも考えていききたいなと思っておりますので、これも事務局あるいは座長としての私のスキルにかかってくるのではと思っております、そのことについては今日いただいたご意見、しっかりと受け止めておきたいという風に思います。

それではこの後、限られた時間ではありますけれども、皆様からグループディスカッションいただく説明を、事務局からお願いします。

<来年度の市民会議の議題について（グループディスカッション）>

▼事務局

ここからは、実際に来年度以降、市民会議で話し合ってくださいテーマを、皆様と一緒に考えていききたいと思います。まず、本日の会議開催前に皆様へ事前にテーマの募集を行っておりましたので、その内容をご紹介します。また、事務局アイデアも参考までにご紹介させていただきます。その後、3グループに分かれてグループ毎に話し合ってくださいと思います。

はじめに、事前にお寄せいただきました「対話テーマ」アイデアをご紹介します。

- ・社員個々人のライフステージに応じた相互支援意識の醸成について
- ・介護と仕事の両立について
- ・相互理解を深め多様性を認める社会の醸成に向けた協同組合からの聞き取り
- ・女性管理職の登用について（女性自身が望まない）

このようなテーマをお寄せいただきました。

また、事務局としては、参考例として、

- ・企業や社会における性的マイノリティの方への対応について

というものを下させていただいております。この他にもですね、もっとライトなテーマの例といたしましては、

- ・男性トイレにオムツ交換台がない
- ・「就労」以外の理由でも子どもを預かってほしい
- ・「男の子なんだから泣くな」はなぜか
- ・育休に入った同僚と職場に残された私の本音と建て前

というようなタイトルで、実際そのところどうなの、ということをお話し合ってもらいなど、こういったライトなテーマでも良いのかなと考えています。

このように、来年度の市民会議でぜひ話し合いたい！と思うテーマについて思いつく限りたくさん挙げていただければと思います。このあとブレイクアウトルームを作成し、3グループに分かれてワークを行っていただきます。まずは、個人ワーク。事前にお配りしている付箋に、対話テーマを思いつく限り書き出してみてください。その際、3つの切り口で考えて頂きたいです。カテゴリ1：企業としてのジェンダー課題、カテゴリ2：個人としてのジェンダー課題、カテゴリ3：社会としてのジェンダー課題です。企業は青い付箋、個人は赤い付箋、社会は黄色い付箋に書いてください。その後、グループ内で発表しあい、その中から特に重要だと思うもの、これだけは絶対に話し合って欲しい！と思うものを、カテゴリ毎に1つ、合計3つ選出してください。

グループの中で、誕生日が一番早かった人にタイムキーパーと司会を、誕生日が一番遅かった人に発表をお願いしたいと思います。ではいってらっしゃいませ。

▼事務局

ありがとうございました。それでは各グループ2分程度ずつ、発表いただきます。Aグループからお願いします。

▽Aグループ

まず企業としての課題については、男性育休の重要性について、というテーマがいいのでは、というところでまとまりました。個人については、性別によらず個人を尊重できる社会づくりとは何か。3つ目の社会における課題についてはちょっとまとまっていなかったのですが、偏見や排他的な意識を考える、ぐらいにしておきます。その3点です。

▽Bグループ

まず私たちのグループで出たのが、企業・個人・社会で分けるということだったんですが、実は全部繋がっているから、どれが企業でどれが個人でどれが社会でって、そもそもカテゴリとして言える話じゃないですよ、って、グループ3人が共通のその認識を持っていました。そのうえで、ということで色々出た話をさせていただきます。まずは、育休であったり介護休業を取ることも自体もそうなんです、その復帰後ですね、復帰後どのようにフォロー

体制を整えるのか、復帰後まで考えた話しを聞きたいですよ、という話が出ました。あとはジェンダーのアンコンシャスバイアスという部分で、男の仕事・女の仕事と言われてしまう部分や、資料にあった「女性管理職の登用について（女性自身が望まない）」についても、女性だから望まないではなくて、そもそも管理職になりたくないのはなぜか、というところを、企業も選択肢を決めつけずに考えなきゃダメですよ、こういうちょっとしたところにまだまだバイアスが隠れてますよね、という話が続けておりました。

▽Cグループ

私のグループは企業の方が多かったので、どちらかというと職場関係の話題が多かったんですが、まずひとつが、先程も出ましたがカテゴリ分けが難しいですよ、という話が出ました。全部繋がっているという認識です。その中で優先順位を決めていこう、ということだったんですけども、最終的に一応カテゴリごとにテーマを挙げました。

1つめ企業としての課題については、女性の登用についてというところ、同じように男性も含め、男性女性限らずそもそもそういったものを望まない人も増えている中で、どうしていったらいいのかということテーマとしてはどうかと。それから個人のテーマ、これも職場にも関係するんですが、介護・育児の関係で休業する場合どうしていくのか、特に会社や社会でどのようにそれを認識・理解していくのかということに興味があると。それから社会というところでは、そもそも何か答えを出すといったことは難しいように思いますし、今回新しい会議の中では新しいメンバーも入ってくるとのことですので、そういった方々からの声、どういったものにも興味があるかも聞いて、それをテーマとしてはどうかという話が出ました。

▼事務局

皆様ありがとうございました。今いただきました内容をまた事務局で持ち帰り、ご期待に応えられるような内容にしてまたお伝えできればと考えております。短い時間ではございましたが、あらためて皆様ありがとうございました。

ではこのあとの進行はまた市長にお戻ししたいと思います。よろしく申し上げます。

<まとめ>

▼市長

はい、みなさん限られた時間で本当にありがとうございました。今日皆様それぞれにまとめていただいた内容をですね、来年度のセカンドステージに向けてしっかりと我々事務局でも議論をして、その方向性を新年度に入ってお示しをしたいと思っております。本当にありがとうございました。

皆様の方から、お知らせしておきたい情報や紹介したい情報等なにかございますか？ジェンダーに関係なくても結構です。特によろしいですか？

はい。本当にありがとうございました。10 回目の市民会議で皆さんに合意をいただきまして、また次のステージにチャレンジをしていきたいと思っております。市民会議がスタートして3年が経過をいたしまして、市民会議としては全10回のプロセスがありました。この間皆様にご協力をいただきましたことに御礼を申し上げますとともに、ネクストステージでもですね、これ本当にしっかりやっていると、日本大変なことになるぞ、といった問題でもありますので、またみなさんと一緒に、一人でも多くの市民、企業市民のみなさんを巻き込んで、またそこに何かしら伝わるようなチャレンジができればいいなという風に考えております。

新年度も、そのプロセスの中で、市が予算付けしてやろうとしていること、あるいは、今の時点で予算付けもせず全く白紙の状態なんだけれども皆さんからいただいたものでですね、政策として施策化していく、そういうことをできるだけ、1つでも多くのポイントをやりたいと思えますし、すでにやろうとしていることで、この場でいただいた意見の角度からですね、欠けていたことについては、男女平等参画あるいはジェンダー全体の視点を入れながら、もう1回議論構築をしていくとか、様々なことが考えられますので、何かあったらどんどんご意見・ご指摘をいただきたいと考えております。

重ねて皆様に御礼を申し上げまして、進行を事務局に戻したいと思えます。みなさんありがとうございました。

<閉会>

▼事務局

はい、ありがとうございました。これを持ちまして、第10回市民会議を終了いたします。次回、第11回の市民会議は、6～7月頃に実施を予定しておりますので、よろしく願いいたします。

また、今回はアンケート用紙を特にご用意しておりませんが、市民会議で感じたことや、疑問点、話したりなかったことなどがございましたら、メールや電話等で、お気軽に事務局の方へ御連絡をいただければと思います。ありがとうございました。